

平成26年度有功小学校
全国学力・学習状況調査結果の概要と具体的な取り組み

調査内容

(1) 実施日 平成26年 4月22日(火) (2) 対象 第6学年 2学級 44人

全国学力・学習状況調査は、国語・算数ともに「知識」に関する問題を主としたA問題と「活用」に関する問題を主としたB問題の2つがあります。A問題、B問題ともに国語は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の1事項に、算数は、「数と計算」「量と測定」「図形」数量関係」の4領域に分かれています。

教科調査結果の分析より

《国語科の傾向》

・A問題に関しては、漢字の読み問題での不正答が目立つ問題もあったが、漢字を書く出題においては正答している割合が全国と大きな差はなかった。しかし、故事成語の使い方として正しいものを選択する問題が全国平均に比べて、かなり下回ってしまった。これは、伝統的な言語文化の理解を深める内容を学習することが不足していたことが判明した。

・設問は「(～たり、～たり) という表現に直して書きなさい」というものである。この問題に対して、書くという作業に入る前の「問題の意図に沿った回答をする」ということができていない児童が多かったことが判明しました。また、言葉の意味と使い方を的確に捉え、適切なものを選択するという問題もできていなかった。これも、同様に問題の意図を正しく捉えて何を答えとして考えればよいかという判断が上手くできていない子が多くいた。

・B問題に関しては、この傾向がよく現れてしまった。「付箋の内容を関係付けて書く」ということができていなかった。問題文を読み取る作業を時間内にしていくということも難しかった。

・「(詩1) と (詩2) を比べて読んで考えたことを書く」という設問に対しては、全国よりも高い正答率を示していた。普段より自分の考えを書くという取り組みをしてきたことが生かされていた。

《算数科の傾向》

・算数Aの基礎的な計算では、少し複雑になった $100 - 20 \times 4$ の計算のようなものになると間違えてしまう児童が全国平均より多くなってしまった。また、示された図を基にテープの長さを求める式を選ぶ問題では、正確に設問の意味を捉えられなかった児童が増えてしまった。

・図形と2つの数量関係を記号で表す内容の問題で、その内容を理解できていない児童の割合が高くなってしまった。こういった問題をあまりしていなかったことが要因と考えられる。

- ・算数B問題については、例えば二人の説明を基に、 37×24 の積が888になることを書くという内容では、設問の意図を正しく理解して回答していくという力が不足してしまった。問題文を時間内に読み取るということにも慣れていなかった。
- ・図形の応用として考え方と答えを書くという問題では、無答になってしまった児童が全国平均より多くなってしまった。こういったことにも慣れていないと判明した。早急に対策を立てて行かなければならない。

全国学力・学習状況調査では、国語・算数の学力調査の他、児童質問紙調査があります。この質問紙調査では、児童の学校や家庭における学習状況や各学校での指導の様子が分かります。

《質問紙調査の傾向》

- ・本校は「食と健康」をテーマに研究してきている。朝食を食べてきている児童の割合が全国を上回っています。ご家庭での協力と、私たちの努力の成果が上がっています。また、就寝時刻についても毎日決まった時刻に寝ている子が全国と同じくらいになっています。今後も継続していきたい。
- ・前年度よりは改善されているが、土曜日に家庭で学習する時間の少ない子や、自分で計画を立てて学習していない子が残念ながら全国より多くなってしまっている。家庭と協力して改善していきたい。
- ・国語に対する取り組みも昨年度に比べると今年度は意識の上で全国に近い状況になっている。しかし、正答率のポイントが高くなってきていないところに問題点がある。今年度から取り組んでいく。
- ・算数科においても前年度に比べて、考え方を書くことを実践している子が全国に近くなってきているが、算数科においてもポイントが全国に比べて低くなっている。設問の捉え方など練習していくようにしたい。

調査結果を受けて本校が、具体的に取り組んでいくこと。

- ・例年通り引き続き、「早寝・早起き・朝ごはん」の取り組みは継続していく。より一層規則正しい子どもの生活をさせていきたいと思います。
- ・国語科において、新しく取り入れた「有功タイム」を利用して、問題の設問を理解し時間内に答えていくことができるようにしていきます。
- ・普段の授業の中に、今まで以上に書く活動を取り入れ、設問の意図を的確に捉えられるようにしていきます。
- ・問題をしっかりと読み取らせる事が大切です。読書量を増やす工夫をしていきます。
- ・算数科において、有功タイムを利用して、問題の設問の意図を理解する学習を積み重ねます。
- ・理解を深めるために、今以上に「考えを書く」時間を授業の中に取り入れます。
- ・基礎的な技術の習得に時間のかかる子に対しては、今までのように個別に放課後対応していきます。